



秋田県立支援学校天王みどり学園 研究だより NO.1
平成28年5月23日 発行

ippo(いっぽ)

研究だより『ippo』は、『①nteraction (相互作用)、②ur②ose (目的)、③bserve (観察)]の頭文字から命名しています。名前の通り、『目的を共有し、互いに観察し合い、高め合う』教職員、そして授業づくりを目指し、様々な情報を発信したいと考えています。

今年度は、本研究のまとめの年となります。全校職員で共有して取り組んでいきたいことを再度お伝えします。

【平成28年度 研究主題】

キャリア教育の視点で小・中・高を貫く教育課程の編成

～学部間をつなぐ仕組みを活かした取組～ (2年次/2か年)

『キャリア教育の視点』とは？



平成28年度学校教育の指針によれば、キャリア教育の視点とは、『将来の社会的・職業的自立を念頭に置きながら、子供たちの成長や発達を促進する見方をもつこと』とされています。見方に当たるのがキャリア教育全体計画になります。社会的・職業的自立に向かっていくためには、小学部・中学部・高等部の連携を図りながら指導を積み重ねていくことが必須です。

『教育課程の編成』・・・具体的にはどうということ？

教育課程は、学校の教育目標を達成するために、各学校が、指導内容を選択し、組織し、それに必要な授業時数を定めて編成する教育の全体計画です。それを基に我々は授業を計画し実践していきますが、本研究において、計画立案の際の指針となるのがキャリア教育全体計画です。キャリア教育全体計画を基に年間指導計画を見直し→実践→評価→改善をすることで教育課程の改善を図ります。ですので、職員一人一人が実践を通して『教育課程の改善』に取り組んでいるのです。



『学部間をつなぐ仕組み』とは？



指導計画の連続性を図る方法として、ワーキンググループ(隣接する学部をまたぐ学年同士でグループ)による話し合いを毎月実施します。キャリア教育全体計画を基に、各学年の年間指導計画について検討を重ね、指導が積み重なる指導計画(指導目標、指導内容、指導方法)の作成を目指します。各グループの意見がプロジェクトチーム、教育課程検討委員会において整理されることで、小・中・高を貫く教育課程の編成につながります。